



小学校算数科 習熟度別指導のすすめ

福岡市教育センター 学力の向上（算数，数学科教育）
長期研修員 小野原 聖

習熟度別指導のメリット

○教員

- ・複数の教員で児童の実態把握を行うことができます。
- ・児童の実態に応じて学習活動を展開することができます。

○児童

- ・自分に合ったペースで学習活動に取り組むことができます。
- ・習熟度が同じなので，周りの反応を気にせず質問や発表を行うことができます。

習熟度別指導を積極的に取り入れて行きましょう！



習熟度別指導を取り入れる際の留意点

○場所と人の調整

複数の学年が習熟度別指導を行う場合，指導する場所や教員の調整が必要になります。どの時期にどれぐらいの時間行うのか，学年間で打合せしておきましょう。年度始めや学期始めに打合せを行うと，より計画的に行うことができます。

○教員の役割分担

管理・運営する教員を決めておくと，習熟度別指導をスムーズに行うことができます。「誰が・いつまでに・何をするのか」を明確にしておきましょう。教員のコース担当は，経験年数や指導力等を考慮して決めるようにしましょう。また，コースを固定せず，学期や単元ごとに変えていくと実態把握の充実や授業力の向上につながります。

習熟度別指導の行い方

○分割の仕方

・学級を分割する方法

メリット …少人数で授業を行うことができます。
デメリット…学級数が多い場合，時間割や場所の調整が難しくなります。

・学年を分割する方法

メリット …学年の児童の実態を把握することができます。
デメリット…各コースの進度をそろえる必要があります。

○単元への位置付け方（右図参照）

・単元の最初から位置付ける

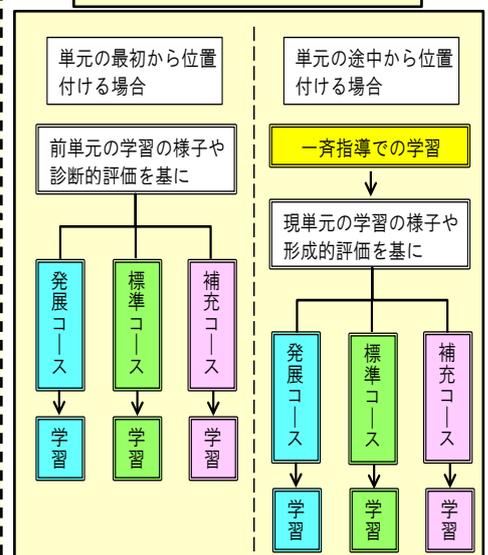
…レディネステスト等の診断的評価を基に行います。

・単元の途中や最後に位置付ける

…学習の様子等，形成的評価を基に行います。

※単元における習熟度別指導の位置付けは，学習内容と児童の実態を基に判断していくようにしましょう。

単元への位置付け方



習熟度別指導の単元を通した流れ ポイントは「明確・共有」です！



児童の実態把握 (R) 児童の実態が共有できるようにしましょう！

- ・レディネステストや様相観察で、学習内容の定着度やつまづきを把握しましょう。
- ・アンケート等による調査や様相観察で、学習態度や生活態度を把握しましょう。

指導計画等の立案 (P) 具体的な指導方法等が共有できるようにしましょう！

- ・学年会での相談後、管理職へ実施する旨の報告を行い、学校の理解を得ましょう。
- ・便りや懇談会、学年集会等で実施の意図や行い方を伝え、保護者や児童の理解を得ましょう。
- ・コース希望に関するアンケートの結果も基にしながら、コース編成を行いましょ。
- ・1単位時間の学習展開例を作成し、コース別の手だてが実施できるようにしましょう。
- ・評価基準を設定し、適切な評価が行えるようにしましょう。

コース別の手だての実施 (D) 手だての有効性が共有できるようにしましょう！

- ・様相観察や適用問題の正答率で、学習内容の理解状況を確認しましょう。
- ・様相観察や学習感想の内容で、学習活動に臨む態度を確認しましょう。

単元全体の振り返り (C) 指導の成果と課題が共有できるようにしましょう！

- ・単元テストを行い、学習内容の定着状況を確認しましょう。
- ・アンケートや聞き取り調査を行い、コース編成の適切さ等に関する児童の感想を確認しましょう。
- ・懇談会等を利用して、保護者の感想を確認しましょう。
- ・1単位時間の学習展開例等を基にしながら、コース別の手だての有効性や評価の適切さを確認しまし
よう。

指導計画等の改善 (A) 修正内容とデータ等の保管場所が共有できるようにしましょう！

- ・単元指導計画の修正を行い、単元における習熟度別指導の位置付けを確認しましょう。
- ・コース希望に関するアンケートの内容修正を行い、コース編成の充実を図りましょう。
- ・1単位時間の学習展開例や評価基準の修正を行い、コース別の手だてや評価の充実を図りましょう。

習熟度別指導のQ & A その1



打合せを効率的に行うにはどうしたらいいですか？

ポイントは「打合せ内容を決めておく・具体的な資料を準備しておく・空き時間を活用する」の三つです。左ページに明記してある「児童の実態把握」「指導計画等の作成」「コース別の手だての実施」「単元全体の振り返り」「指導計画等の改善」の各段階に応じて、打合せを計画的に進めていきましょう。

コース編成はどのように行えばいいですか？

児童が、コース別の学習に安心して臨むためには、レディネステストの結果だけでなく、アンケートや聞き取り等、児童の希望も考慮しながらコース編成を行うことが大切です。その際、アンケートに習熟度別指導を行う理由や各コースのねらいを明記しておくこと、実施の意図を十分に理解させることができます。また、アンケート結果等は実施終了後まで保管しておくようにしましょう。保護者からコース編成について問い合わせがあった際、適切に対応できます。

発展コースや補充コースではどのような手だてを行えばいいですか？

○発展コースの主な手だて

説明する活動の充実

「具体例を挙げる」「図と式の関連を明確に示す」等、根拠がより明確に伝わるような工夫を説明する際の条件として提示します。

発展問題の提示

「桁数を増やす」「整数を小数や分数にする」「情報を増やす・減らす」「条件を示す」「生活場面を取り入れる」等の視点を基にしながら作成し、学習活動の終わりに提示します。

※教科書巻末にある「おもしろ問題にチャレンジ！」も積極的に活用しましょう。

○補充コースの主な手だて

既習を想起する活動の充実

学習活動の始めに、5分程度で解決できる既習内容の問題を提示します。

問題設定の工夫

数値を簡単にしたり、解く問題を限定したりします。

解決活動の充実

始めは全体場で解決方法を確認し、十分な意味理解を図ります。その後に自分の力で解決させることで定着を図っていきます。

※話の聞き方やノート書き方等、細かい部分にも目を向けて指導するようにしましょう。

評価基準はどのように設定すればいいですか？

適切な評価を行うためには、基準を具体的に設定し、指導する教員が共有できるようにしておくことが大切です。下記の視点を参考にしながら評価基準を設定していきましょう。児童が書いたノート等を持ち寄り、評価基準の確認を行うことも大切です。

- 関心・意欲・態度…学習活動中の様相観察、活動後に書かせる感想の記述内容 等
- 数学的な考え方…自力解決の際の記述内容、交流活動の際の発言内容 等
- 知識・理解及び技能…学習のまとめの記述内容、適用問題の正答率 等

習熟度別指導のQ & A その2

習熟度別指導が有効に働く学習場面はどこですか？

「数と計算」領域：既習の定着が大きく影響する場面
 計算の意味や仕方が複雑になる場面
 例：第5学年「小数のかけ算」「小数のわり算」「分数のたし算とひき算」
 第6学年「分数のかけ算」「分数のわり算」

「量と測定」領域：面積・体積を求める図形や求め方が複雑になる場面
 比較する量や比較の仕方が複雑になる場面
 例：第5学年「直方体や立方体の体積」「単位量あたりの大きさ」
 第6学年「円の面積」「速さ」

「図形」領域：作図する場面
 辺の長さや角の大きさ等の対応が複雑になる場面
 例：第5学年「合同な図形」「正多角形と円周の長さ」
 第6学年「対称な図形」「拡大図と縮図」

「数量関係」領域：グラフを書いたり読み取ったりする場面
 計算の意味や仕方が複雑になる場面
 例：第5学年「百分率とグラフ」
 第6学年「資料の調べ方」



1 単位時間の学習展開例はどのような形式・内容で作成すればいいですか？

第6学年「速さ」の第4時を例にして

| 発展コース | 標準コース | 補充コース |
|---|--|--|
| 1. 既習を想起する。 ・速さを比べるときは、単位量あたりの考えを使った方法が便利であること 2. 本時の問題を把握しめあてをつくる。 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">速さの表し方について考えよう。</div> 3. 見通しをもつ。 4. 自力解決し、結果を確認する。 ※筋道立てた説明ができるように、隣同士で説明の仕方を確認し合う活動を位置付ける。 5. 本時のまとめをつくり、適用問題を解く。 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">速さは、単位時間あたりに進む…</div> 6. 発展問題を解く。 ・2時間半で180km走る自動車の時速、分速、秒速を求めること ※教科書巻末の問題を提示する。 | <p style="text-align: center;">作成のポイント</p> ○各コースを並列に示し、互いの指導内容や方法が共有できるようにします。 ○主な学習内容と活動を示します。 ○めあてやまとめの言葉は、具体的に示します。 ○活動する際の留意点を示します。(例では※印) ○コース特有の手だてはフォントを変えて示すと、違いが分かりやすくなります。(例ではゴシック体を用いています) ○始めに標準コースを作成し、その後に発展や補充を考えると作りやすくなります。 | 1. 既習を想起する ・速さを比べるときは、単位量あたりの考えを使った方法が便利であること ※確実な定着を図るため、単位量あたりの考えを使う問題を提示する。 2. 本時の問題を把握しめあてをつくる。 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">速さの表し方について考えよう。</div> 3. 見通しをもつ。 4. 全体解決で求め方の確認を行う。 ※数直線を基にしながら、「はやて号」の時間と道のりの関係を確認する。 5. 自力解決し、結果を確認する。 ※「のぞみ号」の時間と道のりの関係を数直線に表すことを確認する。 6. 本時のまとめをつくり、適用問題を解く。 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">速さは、単位時間あたりに進む…</div> |